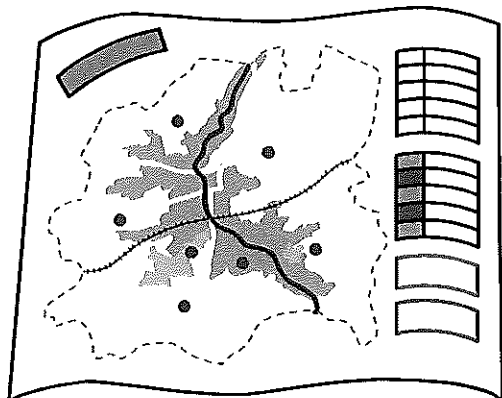


図上訓練 (防災・福祉マップの作成)

図上訓練は、参加者が地図を使って防災対策を検討する訓練です。

ハザードマップ

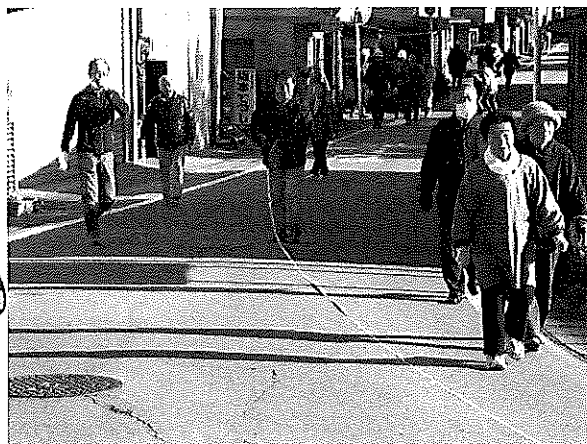
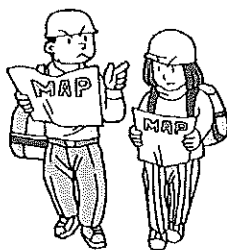
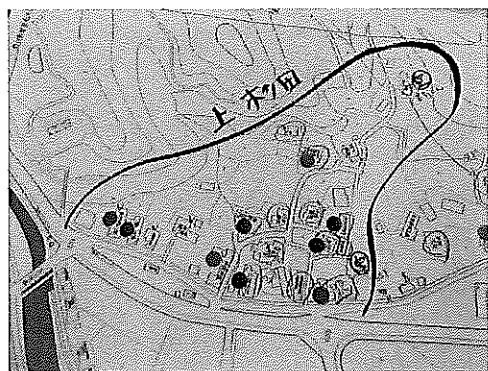


ポイント

図上訓練は、「災害を理解する」「まちを探求する」「防災意識を掘り起こす」という意味も込められています。参加者が大きな地図を囲み、みんなで書き込みを加えながら、ワイワイと楽しく議論していきます。

その中であなたは、あなたと家族が住む地域に起こるかもしれない災害を、より具体的なものとしてとらえることができるでしょう。また、ゲーム感覚で災害時の対応を考えることもできるはずです。図上訓練には決まったルールはありません。

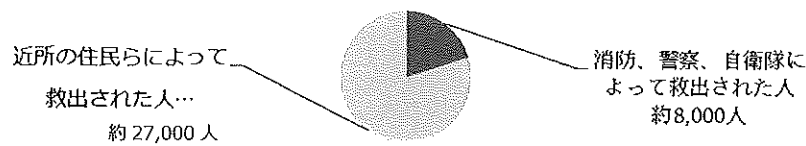
参加者の立場や関心によってさまざまな形、やり方があります。まちを見る目、災害を考えるためにも、体験してみましよう。



～ささえあう関係づくりが地域の防災機能を高める～

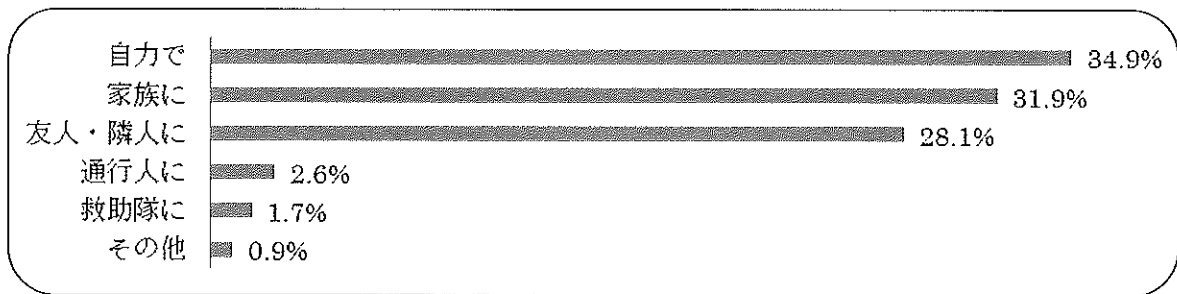
平成7年1月の阪神・淡路大震災からの教訓では、普段からの近隣や地域社会とのつながり、結びつきがきわめて重要であることが再認識されることとなった。阪神・淡路大震災では、瓦礫の下から救出された人のうち約8割が家族や近所の住民らなどによって救出されたという報告がある(図1)。また、特定の地域では自力または家族や近所の住民によって救出された割合が90%を越えるという調査結果もあります。(図2)。

図1 阪神・淡路大震災における市民による救助者数と消防等による救助者数の対比



出典：河田恵昭；大規模地震災害による人的被害の予測，自然災害科学 Vol.16、N.1，pp.3-14,1997

図2 生き埋めや閉じ込められた際の救助



出典：(社)日本火災学会；兵庫県南部地震における火災に関する調査報告書(神戸市内、標本調査)

また、発生後の活動では、全半壊の建物が8割と甚大な被害を受けたにも関わらず、普段からの見守りネットワーク活動が機能し、さらには近隣同士の助け合い、消防団の活躍により震災当日の午後3時過ぎには全員の安否確認が終了した地域の例や、地区ぐるみでのバケツリレーによって火災の拡大を食い止めた等の例にみられるように、普段から支え合う関係が、大規模災害における犠牲を最小限に食い止めるために大きな役割を果たしています。

こうした例からも、普段から支えあう関係をつくり、地域社会とのつながりを持つことの重要性がみてとれます。

今回の 防災・福祉マップ作りの流れ

①地域の状況を確認しよう！（目安：10分程度）

- （赤）シールを貼りましょう ひとり暮らしの高齢者を確認しよう
- （青）シールを貼りましょう 高齢者のみの世帯を確認しましょう
- （黄）シールを貼りましょう 災害・緊急時に一人で避難・安全な判断が困難だと思われる方、支援をして欲しい方
- （緑）シールを貼りましょう 障がい者（身体・知的・精神）、病気などにより見守り（配慮）が必要な方
- （オレンジ）シールを貼りましょう 緊急通報装置を設置している人
- （紫）シールを貼りましょう 命のボタンを設置している人
- （金）シールを貼りましょう 特に見守り（配慮）が必要な人

イ) 空家には、空と書き込みましょう

ロ) 誰が暮らしているかわからない世帯は、詳細不明と書き込みましょう

ハ) その他に 付箋にいろいろな意見・情報を書いて貼り付けてみましょう。

②地域の見守り・支え合いの確認をしましょう！（目安：15分程度）

- （黄）シールの災害・緊急時に支援が必要な人への支援体制作っていますか？

↓いる

どのような支援体制
になっているかを再
確認しましょう

↓いない

どのような支援体制にす
るかを話し合きましょう。
決まれば付箋（マップ）に
書き出しましょう

- （赤）シール一人暮らし高齢者
- （青）シール高齢者のみ世帯、
- （緑）シール障がい者（身体・知的・精神）、ひきこもりなどの見守りが必要な方
- （金）シールの 特に見守りが必要な人

日頃から 見守り・支援をしていることがありますか？

↓やっている

やっている見守り・支援があれば
付箋に書き出しましょう。
また、他にも必要な 見守り・支援
のアイデアながでしたら付箋に
書き出しましょう。

（例）困ったことがあったら相談し
てねと日頃から声掛けをしている
（りんどう太郎）

↓やっていない

みんなで、どんな見守り・
支援ができるかを話し合い
ましょう。
できる見守り・支援が決ま
ったら付箋に書き出しまし
ょう。

③災害・緊急時の話し合いをしましょう！（目安：20分程度）

イ) それぞれの地域での災害・緊急時の連絡体制を確認しましょう

（例）現在作っている緊急連絡網の確認、災害・緊急時の集合場所など

ロ) 自然災害時（台風、大雨、地震など）における危険箇所を予測し、地図にマジックで書き込みましょう。

土砂崩れ危険箇所、水害の起こる箇所、地震、倒木、電線など

ハ) 消火栓の位置・消化水利（水の確保）を確認し、地図にマジックで書き込みましょう。

ニ) 自然災害時（台風、大雨、地震など）・発災の時間帯・避難経路などを想定した避難体制・避難方法・避難箇所などを話し合いましょう。

話し合いで決めたことを付箋に書いて貼りましょう。

ホ) その他 いろいろな場面を想定して意見（アイデア）を出し合いましょう。

意見（アイデア）は、付箋に書いて貼りましょう。